

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

うずのしゆげを知っていますか。
うずのしゆげは、植物学ではおきなぐさと呼ばれますが、おきなぐさという名はなんだかあのやさしい若い花をあらわさないようにおもいます。

(略)

まっ赤なアネモネの花のいとこ、きみかげそうやかたくりの花のともだち、このうずのしゆげの花をきらいなものはありません。

「ごらんささい。この花は黒じゆすでもこしらえた変わり型のコップのように見えますが、その黒いのは、たとえばどう酒が黒く見えると同じです。この花の下を始終行ったり来たりするありに私はたずねます。

「おまえはうずのしゆげはすきかい、きらいかい。」
ありは活発に答えます。

「大すきです。だれだって①あの人をきらいなものはありません。」

「けれどもあの花はまっ黒だよ。」

「いいえ、黒く見えるときもそれはあります。②けれどもまるで燃えあがつてまっ赤な時もあります。」

「はてな、お前たちの眼にはそんなぐあいに見えるのかい。」

「いいえ、お日さまの光の降る時なら誰にだってまっ赤に見えるだろうと思います。」

「そうそう。もうわかったよ。お前たちはいつでも花をすかして見るのだから。」

「そしてあの葉や茎だって立派でしょう。やわらかな銀の糸が植えてあるようでしょう。私たちの仲間では誰かが病気にかかったときはあの糸をほんのすこしもらって来てしずかにかだをさすってやります。」

「そうかい。それで、結局、お前たちはうずのしゆげは大すきなんでしょう。」

「そうです。」

「よろしい。さよなら。気をつけておいで。」

【宮沢 賢治「おきなぐさ」より】

問1 —線部①あの人とは何をさしていますか。一つ選びなさい。

ア きみかげそう

イ アネモネの花のいとこ

ウ うずのしゆげ

問2 —線部②けれどもまるで燃えあがつてまっ赤な時もあります。とありますが、ありは、どんな時にまっ赤に見えると言いましたか。